

月刊

2017

12  
月号

# みんぱく

特集

みもち

いまむかし



時代玩具コレクションについて 日高真吾

デジタルゲームいまむかし 吉田寛 / 組上灯籠 香川雅信

人形遊びは、女の子のもの? 宇田川妙子 / 「共遊玩具」とは? 高橋玲子

# 海を越えて運ばれてきた文化

柴崎 友香

プロフィール  
1973年大阪生まれ。小説家。  
2000年刊行の『きょうのてきこと』(河出書房新社)が行定勲監督によって映画化。『その街の今は』(新潮社)で芸術選奨文部科学大臣新人賞・織田作之助賞大賞・咲くやこの花賞、10年「響ても覚めても」(河出書房新社)で野間文芸新人賞、14年『春の庭』(文藝春秋)で芥川龍之介賞を受賞。

大阪の近代から現代の建築を巡るガイドブックを作るため、大阪の中心部を歩いた。建築史家の倉方俊輔さんが解説をしてくださり、わたしは大阪出身者として主に聞き手をつとめた。見慣れている建物も、来歴や設計者については知らないことが多い。大阪の近代以降の歴史や文化を振り返ることができた。

わたしの出身地、大阪市大正区のページも特設してもらった。市の南西部、木津川と尻無川に挟まれた、茄子のような形の「島」。客船が出る港はないので、普段の生活では、海が近いことは意識されない。むしろ、工場と行き来する船を通すために橋が極端に少なく、都心に近い割には不便な要因となっている。古い建物を意識して歩いてみると、駅の近くには船舶に関わる立派な商店が現役で、海運が盛んだっころの様子が見られる。海から運ばれてきたモノを加工し商うことで大阪の産業を支えてきたことが実感された。

海からは、人も文化もやってきた。近年、沖縄出身の住人が多いことも注目されるようになった。子供のころ、サーターアンダギーが商店街でごく普通に売られていたが、さとうてんぶら、と呼ぶ年配の人もいたので、てっきり大阪の食べ物だと思っていた。

同級生には、沖縄だけでなく、奄美大島や九州、四国方面が田舎の友人も多かった。わたしの父は香川県小豆島の出身だった。隣区の弁天埠頭から出るフェリーによく乗っていたが、現在は四国は橋でつながり、大阪と各地をつないでいたフェリーも随分減った。

今年の春に、天王寺にあべのハルカスという超高層ビルができた(実家からもよく見える)。地上三百メートル、巨大な吹き抜け空間の展望台からは、大阪の街が文字通り一望できる。上町台地の四天王寺から大阪城まで、さらに梅田の高層ビルが見渡せ、大阪の歴史が視覚で体感できる。

鉄道が発展して以降、ターミナルをつなぐ南北が主軸となったが、近世までは海から内陸へ連なる東西の堀と道が街を形作っていたことも、地形を見るとよく理解できる。国内外から海を渡って運ばれたモノや文化が、川をさかのぼり、山を越えていった。工業化が進んで以降、都市の川や水辺は「裏側」として扱われてきたが、最近は遊歩道が作られ、川を眺める飲食店なども増えてきている。大正区でも、今まで使われていなかった川縁でのイベントが行われていて、海や川との関係が変わることで、また新たな文化が生まれてきそうだと期待している。

月刊  
**みんなく**  
12月号目次

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 エッセイ 千字文<br/>海を越えて運ばれてきた文化<br/>柴崎 友香</p> <p>2 特集 おもちゃ いまむかし</p> <p>2 時代玩具コレクションについて<br/>日高 真吾</p> <p>4 デジタルゲームいまむかし<br/>— 変わるものと変わらないもの<br/>吉田 寛</p> <p>5 組上灯笼—江戸のペーパークラフト<br/>香川 雅信</p> <p>7 人形遊びは、女の子のもの?<br/>宇田川 妙子</p> <p>8 「共遊玩具」とは?<br/>高橋 玲子</p> <p>10 集めてみました世界の○○<br/>ベル編<br/>山中 由里子</p> <p>12 みんなく Information</p> | <p>14 文化遺産おもてうら<br/>もの作りの技術を後世に伝える<br/>—奥羽山地の正藍染<br/>小谷 竜介</p> <p>16 多文化をあきなう<br/>タイの有機ジャスミン米<br/>鶴田 格</p> <p>18 味の根っこ<br/>シャンバル<br/>山本 睦</p> <p>20 人間学のキーワード<br/>生権力<br/>加藤 敦典</p> <p>21 異聞逸聞<br/>耳が聞こえないからコミュニケーション障害か?<br/>相良 啓子</p> <p>22 制服の世界、世界の制服<br/>アメリカを身にまとったサンタクローズ<br/>葛野 浩昭</p> <p>24 次号予告・編集後記</p> |
|---|--|



# しまじゅがし みんぱくおもちゃ

おもちゃの造型やそこに込められた思い、期待される役割は、時代とともにうつろいゆき、ときには世相をあらわすこともある。しかしおもちゃで遊ぶことにより、手やからだ、あるいは感性が刺激され、相手とのふれあいが生まれる側面は、いつの時代も変わらない。

## 時代玩具コレクションについて

ひだか しんご  
日高 真吾 民博文化資源研究センター

### みんぱくおもちゃ博覧会

平成二六年五月一五日から八月一五日に民博において企画展「みんぱくおもちゃ博覧会」を開催した。多くの方々に楽しんでもらった本展示では、みんぱくで所蔵している「時代玩具コレクション」を紹介した。

「時代玩具コレクション」は、平成五年に大阪府が購入した五万八〇〇〇点におよぶ膨大な数のコレクションである。江戸時代の終わりから昭和にかけて製造、販売された玩具からなる本コレクションは、平成二二年一月に、大阪府指定有形民俗文化財「玩具及び関連世相資料」(通称：時代玩具コレクション)



企画展「みんぱくおもちゃ博覧会」のチラシ

新聞、号外、雑誌、書籍、古文書などの文献資料も充実していることも本コレクションの大きな特徴である。今回展示した、めんこやすごろくに印刷される図柄や人物、あるいはテレビのキャラクターを題材にした人形からも、当時の世相が良くわかり、歴史資料としても見ても興味深い。

### 日本における商業玩具の歴史

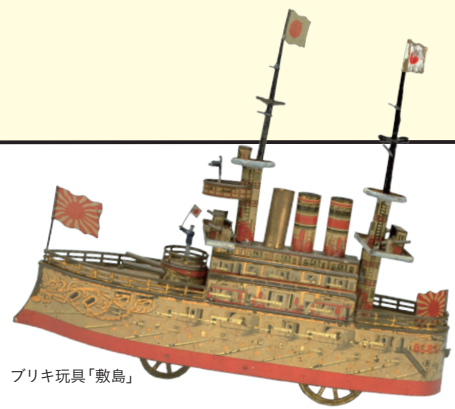
ここで少し、日本の玩具の歴史、とりわけ時代玩具コレクションの対象となった商業製品の玩具の歴史について簡単に紹介しよう。商業玩具の流通は、すでに江戸時代にはじまっている。最初は、大名や貴族の子女向けに製造されていたが、江戸時代の中期ころになると商家を中心とした庶民に普及するようになった。そして、江戸時代後期にブリキが輸入されるようになると、現在でも目にする事ができるブリキ製玩具が流通するようになった。このブリキは、プラスチックが登場するまでのあいだ、長く玩具素材の主役を担っていた。

ン)として大阪府の指定文化財となり、大阪府堺市にある大阪府立大型児童館ビッグバンの一角で展示公開されていた。そして、より多くの人に見ていただくことを目的に、平成二五年三月に大阪府からみんぱくに寄贈されることとなった。「時代玩具コレクション」は、昭和五〇年ころから、日本各地の古物市や旧家から集められた玩具であり、江戸時代から現代にいたるまでの玩具を時代順・種類毎に網羅するものである。また、玩具だけでなく、玩具の時代背景を考証するため、

特にブリキに印刷できる大型印刷機の発明や大正時代にブリキの国内生産が可能となったことで、玩具素材の中心として発達していったのである。その後、着実に製造技術を高め、アイデア豊かな玩具を作った日本の玩具は、世界一の玩具生産をほこっていたドイツが第一次世界大戦で敗れると、一気に世界第一位の玩具輸出国へと成長する。しかし、この成長も第二次世界大戦で敗戦すると、先のドイツと同様、低迷期を迎えることとなった。そして、現在、日本は再び世界有数の玩具大国となっている。ラジコンカーをはじめとする電動玩具の発明、デジタル技術を駆使したTVゲームの開発、そして、日本のアニメーションのキャラクターを題材とした玩具が登場し、世界中を席巻しているのだ。

### これからの時代玩具

玩具の歴史の変遷を一望できる時代玩具コレクション。膨大な数の玩具の整理には、しばらく時間がかかりそうだが、整理できたものから、随時皆さんにお見せする機会を増やしていきたいと考えている。どうぞご期待ください。



ブリキ玩具「敷島」



少女通学すごろく



めんこ



TVなどのキャラクターをモチーフにした「マスコミ玩具」のUFOロボグレンデザイナー



# デジタルゲームいまむかし —変わるものと変わらないもの

よしだ ひろし  
吉田 寛

立命館大学大学院准教授 /  
立命館大学ゲーム研究センター事務局長

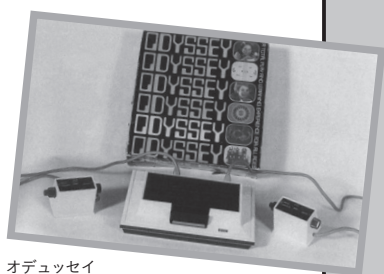
## 「テレビゲーム」の誕生

一九七〇年代に登場し、瞬く間に世界中に浸透したデジタルゲームは、当初「テレビとコンピュータの結婚」（ハワード・ガードナー）とみなされていた。それまでもっぱら放送受信機であったテレビが、コンピュータの力によって、見事にあらたな「玩具」へと変身してしまった、というわけだ。実際、世界初の家庭用テレビ向けゲーム機「オデュッセイ」（マグナボックス社、一九七二年）を発明し、「ビデオゲームの父」ともよばれるアメリカ人技術者ラルフ・ベアは、見たくもない番組にチャンネルを合わせる以外の用途にテレビを使う方法はないものかと考えていたときに、ゲーム機のアイディアを思い付いたという。つまりデジタルゲームは、二〇世紀最大のメディアであるテレビをまさしく「インフラ」として再利用

することで、爆発的に普及したのだ。「テレビゲーム」という和製英語（じつは英語にはこのことばはなく、代わりにビデオゲームという）の存在もそのことを端的に示している。

## 「コンピュータではなく「おもちゃ」？」

だが日本では幾分事情が異なっていた。アメリカでゲーム産業の礎を築いたのがおもにコンピュータ企業（アタリ、コモドールなど）であったのに対し、日本では玩具メーカー（任天堂、エポック、バンダイなど）がその役割を担った。そのため日本では、家庭用ゲーム機から「コンピュータ」の機能（キーボードやプログラム開発環境など）が取り除かれ、もっぱら「おもちゃ」としての製品特性が強調された。このことは、ホームコンピュータの普及という面では日本にとって不利に働いたが、



オデュッセイ  
(マグナボックス社、1972年9月)  
Ralph H. Baer. Videogames: In the Beginning.  
Springfield: Rolenta Press, 2005, p. 75より

多様で豊かな「遊び」の伝統のなかにデジタルゲームを引き入れるという、それ以上のメリットを生むことになった。屋外に持ち出せる携帯用ゲーム機（「ゲーム&ウォッチ」や「ゲームボーイ」がその元祖）や、バットやラケット型のコントローラを「振り回す」タイプの体感型ゲーム機（最近では「Wii」がそれで成功している）は、まさに「おもちゃ」の伝統のなから出現したものである。

## いま問われる「ゲーム」の存在価値

デジタルネットワークが社会全体を覆いつつある現在、ゲームはいっそう身近な文化としてわれわれの日常生活に入り込んでいる。いまや一人一台と言われるスマートフォンやタブレットPCの普及とともに、主婦や高齢者など、これまでゲームからもっとも縁遠かった人びとまでもがマーケットに取り込まれつつある。家電製品のインスターエースやインターネットのサービスまで、あたかもすべてが「ゲーム化」されようとしている時代だ。しかしそうした時代だからこそ、「ゲーム」とは何か、そしてそもそも「遊び」とは何か、あらためて問われていると

言えよう。「ゲームスタディーズ」とよばれるあらたな研究分野があるが、そこではいまなおヨハン・ホイジンガやロジェ・カイヨワによる人類学や神話学の古典が読まれ続けている。たとえばカイヨワは『遊びと人間』で、競争、偶然、模擬、眩暈という遊びの四要素を指摘したが、それらはどんなにデジタル技術が進歩したところで、人間が人間である限り、基本的に変わらないだろう。ゲームや遊びは、人間ならではの行為や生産物であるばかりでなく、人間の条件にして、その定義でもある。「人間は遊ぶときのみ、完全な人間なのです」と哲学者フリードリヒ・シラーは言っている。したがってわれわれはそのなかに、変わるものと変わらないものと同時に見つけ出さなくてはならないだろう。



ファミコンブーム(1986年)  
片山聖一『ファミコン・シンドローム  
——任天堂 奇跡のニューメディア戦略』  
洋泉社、1986年、p. 25より



ファミコンブーム(1985年)  
『アサヒグラフ』1986年1月24日号より

## 組上灯籠

### —江戸のペーパークラフト

かがわ まさのぶ  
香川 雅信

兵庫県立歴史博物館主査・学芸員

#### 失われた風物詩

今では季節を問われることはまったくないが、かつてペーパークラフトは夏の風物詩だった。江戸時代から明治・大正のころまで、江戸東京や大阪の町屋では、夏になると夕涼みの床机や縁側の上に、紙で作った建築物や芝居の一場面などを飾り立てる光景が見られたという。このペーパークラフトは、錦絵、すなわち多色刷り木版画として商品化されていて、上方ではおもに「立版古」とよばれていた。ただし、これはあくまで通称だったようだ。実際に売られていたものに「立版古」のよび名が使用された例はほとんど見いだせない。「組上灯籠」あるいは「切組灯籠」とよばれることが多く、略して「組上」ともよばれた。

「灯籠」の名称は、それがもともと「灯籠飾り」に由来するものであることを示している。「灯籠飾り」はお盆の精霊を迎える灯籠から発展したもので、紙で精巧にこしらえあげた造り物を寺の軒下などに飾り立てたものである。「組上灯籠」はこれを商品化したもので、「灯籠」の名称はいわば盲腸的な残存なのである。それはもはや照明器具としての「灯籠」ではないが、床机や縁側に飾るとき、蠟燭や灯心の明かりでライトアップしたということ





上の2枚の写真は同じ女の子が写っています。あなたは、この2枚からそれぞれどんな印象を受けますか？  
(提供・千里文化財団)

## 人形遊びは、女の子のもの？

宇田川 妙子 うだがわ たえこ 民博 民族社会研究部

### おもちゃとジェンダー

今年八月、ブロックのおもちゃで有名なレゴ(LEGO)が女性の科学者のミニフィギュアを発売した。その少し前、アメリカの少女がレゴの会社あてに、「レゴの女の子(フィギュア)は、家のなかやビーチやお店にいただけだけど、男の子は冒険や仕事をしていたり、人を救ったり、サメと一緒に泳いだりもしている。女の子にも冒険や楽しいことをもっとさせて！」と書いた手紙がネットで話題になっていた。

おもちゃは、じつは、男女のジェンダー差がはっきりみられるもののひとつである。現在、性別役割の見直しが進み、女性たちも外で仕事をするようになってきた。学校教育の場でも、家庭科が男女共修になったり、名簿の男女混合化が進んだりしている。しかし幼少期については、たとえば男児の服はブルー系、女児はピンク系が主流だし、おもちゃ屋でも男児用と女児用の売り場の違いは一目瞭然である。



姉妹人形  
日本、島根県  
標本番号 H0012097

### 人形は何のために？

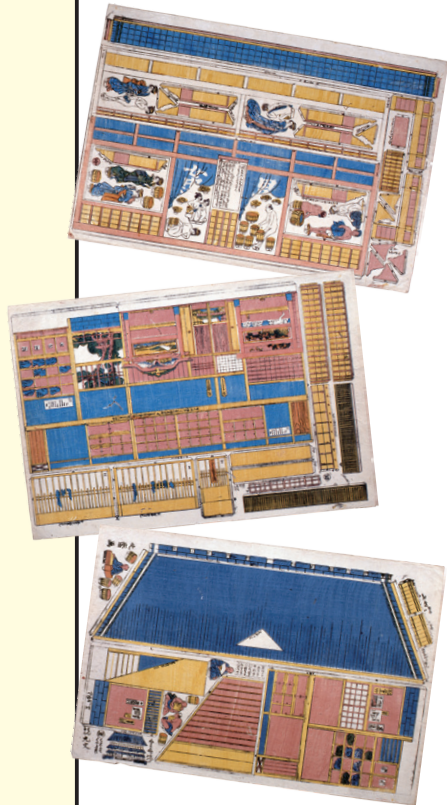
なかでも人形は、女の子のおもちゃの代表格だ。男の子も人形で遊ばないわけではないが、漫画などのヒーローやキャラクターものが多いし、そもそも「人形遊び」とはよばれない。最近ではフィギュアといういい方も出てきた。一方、女の子のそれは、赤ちゃん人形からリカちゃん人形まで多種多様で、遊び方も着せ替えやままこことなど多彩である。

人形はもともと宗教・信仰と関連が深く、祭祀などで用いられてきたが、早くから玩具にもなっていた。平安時代にはすでに「雛(ひいな)遊び」という記述がある。江戸期には、姉妹人形、市松人形など、各地でさまざまな人形が作られ、さらに普及した。姉妹人形とは手足を省略した簡易な紙製の人形で、女の子たちは縮緬紙で髪を作り、千代紙で衣装を着せて遊んでいた。

そして明治に入り、子どもの教育への関心が高まってくると、人形をはじめとする玩具もその観点からの注目が高まった。人形遊びは、女児が作法や家事・育児をまね



新板組上灯籠湯屋新見世之図  
(しんばんくみあげとうろうゆ  
やしんみせのず)  
1810年代、葛飾北斎画、兵庫  
県立歴史博物館蔵  
(入江コレクション)



ろに、その名残をうかがうことができよう。  
斎藤月岑の『武江年表』によれば、「組上灯籠」はまず上方で生まれ、のちに江戸でも作られるようになったという。そのおもな作者として、月岑は北尾政美(歿形憲齋、かつがほくさい、うたがわのりひさ)、葛飾北斎、歌川国長、歌川豊久の名を挙げている。子ども向けの遊べる錦絵、いわゆる「おもちゃ絵」には、浮世絵師の大半が手を染めていたが、「組上灯籠」の場合は作者が限られていたようだ。平面から立体を構築するには、やはりそれなりの才能が必要とされたのだろう。その点、北斎の「組上灯籠」は破綻のない構成で、あらためてその天才ぶりに舌を巻く。

### 町ごとミュージアム

「組上灯籠」はいちおう子ども向けのものという触れ込みだったが、数枚組のものとなるとかなり難易度が高く、結局のところ大人が夢中になって組み立てていったようだ。組み上げたものを家々の軒先に飾り立てたのは、できれば往來の人びとに見てもらおうという意味もあった。江戸東京や大阪の町屋の人びとは、家ごとに飾られた「組上灯籠」を、どこそこの家のはできがいい、うちの家のはどこにも負けない、などと品評を加えながら見てまわるのが楽しみだったようだ。今だとクリスマススの時期に家をイルミネーションで飾り立てる感覚に近いだろうか。町の人びとがおの作品の制作とディスプレイを自らおこなう、いわば町ごとミュージアムに変える習俗だったのである。しかもそれが町の人びと同士のコミュニケーションを生み出しているという意味で、筆者のような博物館で展示に携わる人間としてはたいへん興味深い。願わくば、現代にも復活してほしい都市の風物詩である。



ながら女性性や母性を養うための手段とみなされ、ままごとセットなども数多く作られはじめた。人形はますます女性の役割と結びついていったともいえる。

一方、男児と人形の関係はどうだったのか。現在、男の子が人形やぬいぐるみを見なかな手放さないと、親は心配するという。たしかに歴史的に人形と女兒の結びつきは強い。しかし人形遊びは、家事などの訓練だけでなく、人に対する想像力などを養ううえでも重要だとする見解は少なくない。明治期日本の児童心理学や教育論にも影響を与えたスタンリー・ホールも、「人形遊びが少女特有のものとみられるのは不幸だ」と指摘していた。

最近では新たな動きもある。冒頭のレゴの例もそのひとつだが、一昨年は、スウェーデンのおもちゃ会社のクリスマス用カタログに、男の子が赤ちゃん人形をもっている写真が掲載された。もちろん、単純な性別役割の見直しや逆転では何の意味もないという意見もある。ただし、より広い視野から子どもと人形の関係をとらえ直し、その可能性をさらに広げていくためにも、まずは、少なくとも現在の人形たちがあまりにもジェンダーという枠内に絡めとられていることに気づくことから始めていく必要があるに違いない。

## 「共遊玩具」とは？

高橋 玲子 たかはし れいこ  
株式会社カラトミー

いっしょに楽しめる

目の不自由な子どもたちにも楽しく遊べるおもちゃで、一般市場向けに造られ販売されているものを「共遊玩具」という。色の違いが触感でも区別できるように工夫されていたり、手でさわっても崩れてしまわないように工夫されていたり、おもちゃの印刷面に貼ることのできる点字（凸凹）シールがついていたり、音やおもちゃの声によってその動きや状況がわかるようになっていたりなど、共遊玩具にもさまざまな種類がある。



石の白面と黒面に触感の違いがあり、さわってもずれないように工夫されたオセロゲーム  
TM & © Othello, Co. and Megahouse

おもちゃを「障害児向け」としてつくってしまうと、市場が小さく価格も高額になり、玩具メーカーの事業としては成り立ちにくい。そこで、一般向けに開発するおもちゃにほんの少しでも工夫を凝らし、目の不自由な子どもたちもいっしょに楽しめるようにしていこうというのが「共遊玩具」の活動である。

この活動の事務局である日本玩具協会が、協力メーカーから申請のあったおもちゃについて、視覚に障害のある子どもたちにもほぼ問題なく楽しめるかモニター審査をし、年一回メーカーの枠を越えた共遊玩具カタログが作られ希

望者に配布されている。今年度のカタログには、一九のメーカーから約一九〇点（シリーズ）のおもちゃが掲載されている。

おもちゃを通して世界に触れる

おもちゃは子どもたちが楽しむものであると同時に、



形や質感をリアルに表現した手のひらサイズの動物玩具。さわれる「点字・足あとシール」が希望者に無料配布されている  
©TOMY



さくっと切って遊べる、触感もリアルな食べ物玩具シリーズ  
©2014 Royal Co., Ltd. Japan

視覚障害のある人にとっては、さわれない世界を知るための大切なツールでもある。大きすぎたり遠すぎたり、もろすぎたり危険だったり、映像のなかにだけ存在していたり、わたしたちの周囲には、知っていて当然とされるのに目が見えなければ確認できない物が非常に多い。

「見えない者にとっては、おもちゃといっても物の形や動きを確認したり想像したりできる貴重な教材です。年をとってもわたしはジャンボジェットやクレールン車などをおもちゃで確認しています。スカイツリーの形もパズルで知りました。そんなおもちゃをつくってほしいです」

「いろいろな船舶や航空機、宇宙ステーションなどの人工衛星、空の雲や星座の形、地球儀上の世界の国々、地球を覆っているプレート動き、舞台上のオーケストラの楽器の形と配置、人気アニメのキャラクター、鳥や獣や昆虫海の生き物など、大きなもの、小さなもの、あらゆるものにさわってみたい！」

玩具メーカーには、視覚障害のある大人の方々からも、しばしばこんな要望が寄せられる。これまで知らなかった物の形をおもちゃで知り、子どもや孫との会話が楽しくなったという声もある。

「見えない」ことを補う機能上の工夫があるものだけでなく、見ることでできない世界をさわられる形で提示してくれるキャラクター玩具や、乗り物や建物、動物や食べ物や生活用具などを模した玩具も、障害のある人となん人とのコミュニケーションを助ける貴重な「共遊玩具」である。

頭や脚を動かしたり、羽根を広げたりして遊べる、昆虫玩具  
©2014 T-ARTS/あにそんぶ



# 集めてみました世界の



山中 由里子 民博 民族文化研究部

「ジングルベル、ジングルベル」の歌があちこちで聞こえる季節になった。この歌を聴いて、トナカイとサンタをイメージする方も多だろうが、じつは馬ぞりの馬につけられるベルらしい。雪はひづめの音を吸収してしまうので、ベルがクラクションの代わりをはたす。

今回は家畜や人がつけるベルを集めてみた。家畜のベルは場所を知らせるためのものや、行事で着飾るためのものがあり、人は儀礼やパフォーマンスの際にベルをつける。

素材や形態やそれをつける動物の動きから、音色とリズムを想像していただきたい。

※寸法の単位はセンチメートルです。



## オーストリア

アルペン地方では、春に山へウシを追い上げ、秋に里へウシを追い降ろす行事をアルプ行列といい、牧童もウシも着飾った。

H68 x W44 x D44  
H0092155



## アフガニスタン

ウマ用の鈴。鈴状のベル6つと鐘状のベルひとつがついている。いずれも金属製。  
H7.0 x W33 x D38  
H0000803



## ウガンダ

ウシ用の鈴。カメの甲羅のなかに、木製の舌(ぜつ)がついていて、ここと鳴る。  
H6.9 x W9.2 x D15  
H0000957



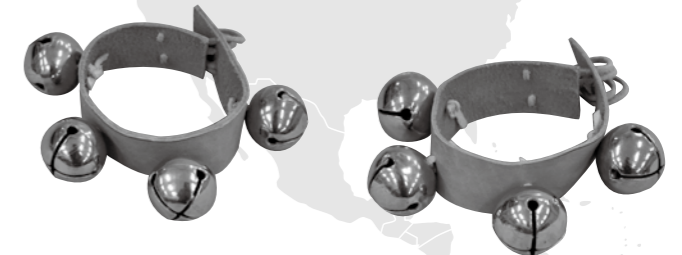
## トルコ

ヒツジの体格や年齢に合わせて群れの一部につけられ、その音色で群れの動きがわかる。  
L24 x W8.9 x D7.6  
H0007871



## タイ

木製のフレームのなかに金属製の鐘がつるされている。これをゾウの首につけて森へ放せば、居場所が鈴の音でわかる。  
H38 x W29 x D14  
H0125916



## アメリカ合衆国

ピクリス・プエブロの人びとのものと推定される。子どものダンスの際に用いられる。金属製の鈴が4つずつついた革製のベルト。両足首につけて、足を踏み鳴らすように踊る。  
ともに H3.4 x W16 x D13  
H0074776



## ケニア

ソマリの人びとがラクダの首につける。革のひだの先端についた瓶のふたがぶつかりあって、からからと音になる。  
L48 x W9.5 x D5.5  
H0007231



## スリランカ

ユネスコの無形文化遺産としても登録されているコーラム舞踊劇で使われる。ふたつで1セット。  
左: H4.2 x W11 x D13  
右: H4.5 x W11 x D13  
H0093129



## インドネシア

ロンボク島の競牛で用いられていた。2頭のウシが引く台に騎手が乗り、田植え前の水田を水上スキーのように走るレースで使われる。装飾が施された10キログラム近い鈴が競牛の首につけられる。  
H77 x W87 x D42  
H0104193



## ブラジル

ポルトガル語でベルネイラ(足輪)とよばれる。紐につけられたヒョウタンとバクの爪と種が互いに当たって、きゃらきゃらと音になる。  
L114 x W1.3 x D1.1  
H0190284



特別展

国立民族学博物館創設40周年記念  
日本文化人類学会50周年記念

「イメージの力」

国立民族学博物館「コレクション」にさぐる  
人間の作り出したイメージのはたらきや受けとめられ方に、人類共通の普遍性はあるのでしょうか。観覧者とともにさぐります。

会期 12月9日(火)まで  
会場 特別展示室

年末年始展示イベント「ひつじ」

2015年の干支である「ひつじ」をテーマに、みんなく所蔵の資料や写真を展示し、世界各地の「ひつじ」にかかわる興味深い情報をご紹介いたします。

会期 12月11日(木)～  
2015年1月27日(火)

会場 本館ナビひろば

■関連イベント

◆ギャラリートーク

日時 1月10日(土)  
11時～11時20分、14時30分～14時50分  
解説 野村厚志(本館教授)  
会場 本館ナビひろば  
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

◆ワークショップ

「ソング☆フェルト」ふわふわ羊毛が大変身!!  
日時 1月12日(月・祝)  
11時～12時、13時30分～14時30分、  
15時～16時  
会場 本館第5セミナー室

※当日受付、先着順、参加無料、6歳未満の方は保護者同伴で参加してください。

国際ワークショップ

「人の移動と民族的／地域的共同性の再構築」  
グローバル化のなかで、ローカルな共同体の維持や展開を可能とする共同性はいかに再構築されるのでしょうか。人の移動に着目して考えます。

日時 12月5日(金)、12月6日(土)  
10時～17時

会場 本館第4セミナー室(定員86名)

※参加無料、申込不要、使用言語は英語

国立民族学博物館・立命館大学学術交流協定締結記念  
国際シンポジウム

「世界の食文化研究と博物館」

協定締結を記念し、世界の食文化研究と博物館の役割について考えます。

日時 12月6日(土)13時～16時45分  
12月7日(日)10時～17時

会場 本館講堂(定員3000名)

※参加無料、申込不要

主催 国立民族学博物館、立命館大学

お問い合わせ  
food@dc.minpaku.ac.jp

公開シンポジウム

「文化財を伝える——日本の保存技術が古代エジプト文明の秘宝を救った」

エジプト文明の秘宝をどのように修復し、保存するのにかつて、文化財保存の専門家と文化財に関心のある方々とともに考えます。

日時 12月14日(日)13時～16時30分

会場 本館講堂(定員3000名)

※参加無料、要事前申込

主催 一般社団法人文化財保存修復学会

お問い合わせ  
bunkazai@dc.minpaku.ac.jp

公開シンポジウム

「マヤ語からみた言語と思考と脳」

日本語と正反対の語順をもつククチケル・マ

ヤ語(の話者)を対象に行われた貴重な研究成果を分かりやすく報告します。

日時 12月21日(日)10時～17時20分

会場 本館第5セミナー室(定員80名)

※参加無料、申込不要

お問い合わせ  
yasuji@dc.minpaku.ac.jp

総合研究大学院大学学術交流フォーラム関連事業

「石見大元神楽」

島根県山間部で伝承されてきた大元神楽の公演を通して、伝統文化の継承について大学院生・研究者・神楽の担い手と共に考えます。

日時 12月21日(日)13時～16時40分

会場 本館講堂(定員450名)

※参加無料、申込不要、先着順

主催 総合研究大学院大学 文化科学研究科

お問い合わせ  
046-8558-1588

総合研究大学院大学 学務課基盤総括事務係

研究公演

「じゃんがら念仏踊りみんなく公演」

じゃんがら(福島県に伝わる独特の念仏踊り)の披露のほか座談会も行い、復興に向けた人ひとの思いについて考えます。

日時 1月24日(土)13時30分～15時30分

会場 本館講堂(定員450名)

※参加無料(要展示観覧券)、要事前申込

申込締切1月8日(木)必着

国際フォーラム

「中国地域の文化遺産——人類学の視点から」

中国地域における有形・無形の文化遺産に焦点を当て、遺産認定が人々の生活にもたらした影響を考えます。

日時 1月24日(土)10時～16時30分  
1月25日(日)10時～16時

会場 本館第5セミナー室

※参加無料、申込不要

お問い合わせ  
heritage@dc.minpaku.ac.jp

公開フォーラム  
「古代文明の生成過程——エジプト・メソポタミア」

考古学者を招いて、最新の調査成果とともに両古代文明の特性について、討論します。

日時 1月25日(日)13時～16時

会場 JPタワーホール&カンファレンス  
ホール1(東京)

※参加無料、申込不要、先着順

お問い合わせ  
seiken@dc.minpaku.ac.jp

みんなく創設40周年記念 カレッジシアター

「地球探検紀行」

10月からプログラムをさらに充実、参加しやすいスタイルで後期講座がスタートしました。

時間 13時～14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

※要事前申込(参加状況により当日受付あり)、参加費各回10000円

主催 産経新聞社

特別協力 国立民族学博物館、千里文化財団

巨大な屋根の謎

イントネシアの家屋と集落

講師 佐藤浩司(本館准教授)

12月10日(水)

江戸の探検家、間宮林蔵と北方民族

講師 佐々木史郎(本館教授)

12月17日(水)

現代中国の農村の暮らし

ある家族の幸せのかたち

講師 韓敏(本館教授)

お申込み・お問い合わせ  
06-66933-9087

※各イベントについてくわしくはみんなくホームページをご覧ください。

※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

みんなくセミナー

時間 13時30分～15時(13時開場)

会場 本館講堂

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示を閲覧になる方は観覧料が必要です)

第439回 12月20日(土)

グローバル化の中の財団

講師 出口正之(本館教授)



グッゲンハイム美術館ビルバオ財団

「財団」というものは、聞いたことがあるようななかかイメージがつかみにくいものです。海外でいうと、ハーバード大学もニューヨーク自然史博物館も財団です。スポーツ団体からロックフェラー財団まで、現在の財団にまつわる話をいたします。

みんなくウィークエンド・サロン  
研究者と話をしよう

時間 14時30分～15時30分

※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

本館の研究者が来館された皆様の前に登場します。

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多岐。

12月7日(日) 本館ナビひろば

邪視をはねかえす力

話者 上羽陽子(本館准教授)

12月14日(日) 本館第3セミナー室

男の世界と女の世界——沖繩離島社会の現在

話者 加賀谷真梨(本館機関研究員)

12月21日(日) 東南アジア横休憩所

エボラ出血熱と「文化」

話者 浜田明範(本館機関研究員)

●展示ガイド更新のお知らせ

2014年3月に新しくなった東アジア展示の展示ガイド更新版が完成しました。展示ガイド(バインター形式)をお持ちの方には、無料で差し替え分をお渡しいたします。ミュージアム・ショップにお申し出ください。

●南アジア・東南アジア展示リニューアルのお知らせ

展示リニューアル工事のため、2015年3月18日(水)まで南アジア・東南アジア展示場を閉鎖しています。

●休館日、無料観覧日のお知らせ

年末年始は12月28日(日)～1月4日(日)まで休館します。1月12日(月・祝)成人の日には本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園(有料区域)を通行される場合、入園料が必要です。

■飯田卓著

『身をもって知る技法——マダガスカル島の漁師に学ぶ(フィールドワーク選書)』 臨川書店 2,000円(税抜)



一本の論文を頼りにして辿りついた先は、インド洋航路の結節点・マダガスカル。海の遊牧民「ヴェス」の暮らしに身を置く中で、次第に浮かび上がる人と海との関係性とは。小さな漁村で出会った漁師とともに、フィールドワークのノウハウを身をもって学ぶ。

刊行物紹介

■笹原亮二、西岡陽子、福原敏男著

『ハレのかたち——造り物の歴史と民俗』 岩田書店 1,500円(税抜)



祭礼など、ハレの際に造られる飾りもの=「造り物」。その歴史と民俗の諸相。2013年8月に国立民族学博物館で開催されたゼミナール「つくりもの——ハレのかたち」の報告を活性化。「造り物の諸相」「造り物は現地で作られる—平田の一式飾を巡って—」などを収録する。

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716  
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 本館第5セミナー室  
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第438回 2015年1月10日(土)14時～15時

グローバル時代の「知的生産の技術」

フォーラム型博情館の可能性

講師 久保正敏(本館教授)

梅棹忠夫初代館長は、博物館を博情館と位置づけ、モノ、映像や音響資料の収集とそれらの情報化に力を注ぎました。また、利用者自身が情報を選択・再構築し、自ら「知的生産」を実践する場として、民博が活用されることを期待しました。グローバルな情報収集と利用が日常となった現代は、博物館における資料や情報の集積・利用や公開の手法において、多様な異文化への配慮が特に必要です。「フォーラム型」の情報集積と公開に新たな可能性を見出す、これからの「知的生産の技術」について考えます。

第439回 2015年2月7日(土)14時～15時

都市の婚礼、山村の婚礼

——ネパール社会の現在(いま)を結婚式に探る

講師 南真木人(本館准教授)

※いずれも、講演会終了後、講師をかこんで1時間程度の懇談会をおこないます。

友の会機関誌「季刊民族学」150号刊行記念展示  
『季刊民族学の軌跡開催中!』

会期 12月9日(火)まで

会場 本館1Fエントランスホール

創刊号から最新号までを展示。実際に手にとってご覧いただけるほか、150冊分の表紙を一望できるめったにない機会です。最新号の特集は「民博の礎」。フィールドワークと収集をとおして、みんなくの40年を振り返ります。

第85回民族学研修の旅

手仕事への回帰

カンボジア、東北タイの機織りの現場をめぐる

2015年2月1日(日)～2月9日(日)

訪問先・カンボジア、タイ東北部

※本誌表紙つらの案内もご覧ください。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。



# もの作りの技術を後世に伝える——奥羽山地の正藍染

小谷 竜介 こたに りゅうすけ  
東北歴史博物館学芸員

戦後日本では、無形のことながらも文化財に指定されてきた。これまで紹介した芸能や儀礼のほか、もの作りに関わる技術も含まれる。この考えはのちに、ユネスコ無形文化遺産にとり入れられた。



## 正藍染

宮城県の北部、栗原市栗駒文字地区に伝わる藍染めは、「正藍染」の名で知られる染色技術を伝えている。一般に藍染めでは、染め液を五〇度程度に加熱し効率よく安定的に染める手法が採られる。これに対して、正藍染は染め液を加熱せずに作る所の特徴がある。温度を一定に管理する必要がないこの技術は、専門の染め屋が発生する以前のものとされ、それゆえ「最古の染色技術」でもよばれている。正藍染は昭和二十九年、東京国

立博物館染色室の山辺知行によって「発見」された技術である。当時、千葉あやのほか数名の女性が伝えていた染色は、藍染めの古態を示すものであり、かつ保護が必要なものとして認められた。昭和三〇年重要無形文化財に指定され、当時もっとも年少で、技術のしっかりしていた千葉あやのが保持者に認定された。いわゆる人間国宝になったのである。現在は宮城県指定無形文化財として、あやの氏の孫嫁となる千葉まつ江氏が保持者になっている。



現在の伝承者千葉まつ江氏 (2010年6月10日撮影)

## 技術の特徴

正藍染は、先にふれた加熱しない染色法が技術的な特徴と

なっている。一方、指定理由には次のように記されている。「正藍染は、自ら糸を紡ぎ織り上げた麻布を、自ら栽培した藍葉から作った染液で染めるといって、生産から加工まで一貫して自製するものです。また、その染色には染色槽を加熱しないという藍染めの古い姿を示していることから、工芸史上、染色技術の変遷過程の一端を現在に伝えている点で貴重なものになります」。ここにあってのように、重要無形文化財正藍染は女性が一人で、原材料となる藍を育て、加

工し、自ら育てた麻で作った布を染める、という一連の流れが指定対象になっている。もちろん、分業化の進む中世以降、こうした染めの伝統は国内でも大変貴重なものであり、文化財として保護の対象になるのは当然のことである。

## 文化財としての正藍染

一方で、その経緯にもあらわれるが、正藍染は、特定の個人が担うものでもなければ、生業としておこなうものでもない。家事の合間を縫っておこなう女性の仕事であり、それは作業衣

をはじめとする、自分たちの着る衣服を作るためのものであった。そして、この技術は、宮城県北部の栗原市だけではなく、奥羽山地に広く見られることが後の報告でも明らかになっている。

の性格が強いことが理解される。一方で染めの技術という観点では、上手い下手は重要な点であるし、高度に技術を会得した、という点からの評価も必要である。こうした点では技術を錬磨し、作品を任上げる無形文化財としての性格もあることがわかる。ここに文化財として評価をすることの難しさがある。

## 正藍染を伝えていくために

正藍染は、一人の女性が、原材料の栽培から加工までを一手に担う、という特徴と、非常に古風な技術を伝えているという特徴の二面を有している。こうした特徴は、現代においては、必要性の小さくなった技術であり、それ故に文化遺産として伝えていくことが求められる。そして、文化遺産として正藍染を考えたとき、その価値は高度な技術の取得や、その錬磨ではないと筆者は考える。しかしながら、日常の生活のなかで藍染め

の存在意義がうすらいでいることを考えれば、この独特の技術を高度に極め、工芸品としての価値を作っていく必要性があることも強く認識している。古い生活の形態に基づく技術を現代社会で維持していくためには、その伝承とともに、伝承意識を高める工夫をしていく必要がある。筆者は、こうした文化遺産を遺していくうえで、日本の文化財保護制度のような二段階の文化財保護施策が有効であると考えている。それは、文化遺産の性格により、不特定多数を対象に指定をかけることで多くの人に保存の意識の向上をもたらす効果が期待できるとともに、個人を認定することにより、その技術を高度なレベルで維持することが可能になるためである。文化遺産を護る手法は多様であり、適切な方法を探りながら後世に伝えていく必要がある。



藍葉の刈り取り作業 (2012年9月10日撮影)

を考えると、民俗文化財として

を考えると、民俗文化財として

# タイの有機ジャスミン米

鶴田 格 つるた たかす  
近畿大学准教授

歴史も浅くあまり知られていないが、フェアトレード食品のひとつにコメがある。社会運動の二環による有機農業から始まった、タイ東北部のジャスミン米のフェアトレードは、政情や産地間の競争など、さまざまな問題に直面している。

## 高級香り米

タイ米に代表されるインディカ米は、日本では「安くてまずいコメ」というイメージがつきまとう。じつさいに家庭で調理に使われることはほとんどないし、輸入されたタイ米の多くは泡盛やせんべいの材料として使われている。しかし、なかには国際市場において高値で取り引きされるタイ産の高級香り米もある。それが「ジャスミン米」である。タイは二〇一二年にインドとベトナムに抜かれるまで長年世界一のコメ輸出量をほこってきた。その輸出量の少なからぬ部分を、普通白米とくらべ二倍前後の高値で取り引きされるジャスミン米が占めているのである。

ジャスミン米の主要産地は、タイのなかでももっとも貧しい地域とされる東北部である。東北タイでは一九八〇年代からジャスミン米の生産が急拡大し、全国の生産量の八〇パーセント以上がそこで生産されるまでになった。東北タイの主要民族ラーオ人はもち米を主食とする。にもかかわらず東北タイ

の一部地域では、販売用のジャスミン米の生産量が地元で消費されるもち米の生産量を大きくうわまわるようになった。

## はじまりは社会運動

コーヒー、紅茶、バナナなどにくらべ、コメのフェアトレードの歴史は比較的あたらしい。スイスのNGOが東北タイのスリン県からおそらく最初のフェアトレード米を輸入したのが一九九〇年代初頭、国際フェアトレード認証機構がコメの認証に関する基準の制定に動きはじめたのが二〇〇〇年のことである。それ以降フェアトレード認証米の取引は急速に拡大してきており、なかでも欧米むけのタイ産やインド産の高級な香り米が大半をしめ、有機栽培認証を同時に取得しているものも多い。

有機ジャスミン米の生産がさかんな東北部のスリン県では、コメのフェアトレードはもともと農村の貧困撲滅や生活改善をめざす社会運動から派生してきた。一九八〇年代のなかば、スリン県の農家

は農産物価格の低迷、化学肥料や農薬の使用がもたらす土壌や生態系の劣化といった問題に直面していた。こうした問題を解決する有力な方策としてうかがいがつてきたのが有機農業の推進だった。スリン市郊外の寺にいたある高名な「開発僧」の尽力により、一九九一年にはついにスイスのNGOが無農薬のコメを買いとってくれることになり、フェアトレードの理念にもとづくコメの輸出がはじまった。その後主要な農民組合は自前の精米所を建設するまでに成長し、有機米の生産と輸出は順調に伸びていった。

## 政治に翻弄されるコメ農家

ここ一〇年ほどのあいだスリン県や近隣諸県では有機ジャスミン米の生産・加工をおこなう農民グループがふえている。そうした競争の激化とともに有機米生産組合の幹部を悩ませているのは、政府のコメ担保融資制度である。これは生産されたコメと引き替えに市場価格よりも高い値段で農家に対して融資をするもので、政府による事実上のコメ買いあげ制度である。前政権のインラック首相は、支持基盤である農家の人気とりのため、高価格でのコメ買いとりを約束した。そのせいで、もともと付加価値のたかい有機米の生産者価格と、一般米の政府買いとり価格（ここでは有機・非有機の区別はない）がほとんど拮抗するまでになり、組合は必要な有機米を確保するためにさらなる買いとり価格の値上げにふみさらざるをえなかった。このことはただでさえ財政事情のきびしい農民組合を苦しめることになった。結局、このコメ担保融資制度が巨額の

財政赤字をうみだし汚職の温床になったとしてインラック政権はきびしい非難にさらされ、二〇一四年五月におこったクーデターにより退陣を余儀なくされた。

## 輸出依存からの脱却

こうして有機ジャスミン米の生産とフェアトレードは、不安定な政治情勢に左右される一方で、きびしい産地間の競争にも直面している。ベトナムなど近隣諸国もちかく有機ジャスミン米の輸出に本格的に参入するであろうと予測されている。そのようななか、輸出ビジネスだけに依存しないあたらしい動きがあらわれている。ひとつは海外でなく国内の消費者にむけた有機米ビジネスの展開である。たとえば仏教の戒律に忠実な道徳的な生産者がつくる「道徳米」の販売という、仏教国ならではのブランド戦略をとる農民グループがあらわれた。もうひとつの重要な動きは都市部で毎週開催される有機農産物加工品の直売市場（緑の市場）の隆盛である。有機米の生産・認証でつちかかったノウハウをいかして、生鮮野菜や加工品などを農家が直接販売するしくみを農民組合のメンバーが中心となつてつくりあげたのである。ちかい将来有機米生産グループ間の競争ははげしさを増し、輸出依存のフェアトレードはいっそう不安定な状況におちいるであろう。だから、こうして国内の有機農産物市場を開拓し生産者と地元消費者のあたらしい関係をきずいていくことは、個々の農家の経営戦略としても、地域の食料安全保障にとっても、とても大切なことである。



毎週土曜日に開催されるスリン市の緑の市場はすっかり市民に定着した



道徳米ブランドの赤ジャスミン米



国などの資金援助で巨大な精米施設を建設する組合もあらわれた



コメの選別をする農民組合職員



欧米むけに輸出されるジャスミン米のパッケージ





「Hoy Shambar (本日シャンバルあります)」の文字



皿につがれるシャンバル



シャンバル(中央)とつけあわせのソースやポップコーン、ブタのリブローズ

## 味の根っこ



ペルー海岸部の豆スープ

# シャンバル

山本 睦 山形大学助教

### 月曜日のスープ

首都リマから北へ約五五〇キロメートル。沿岸部にあるペルー第三の都市トゥルヒーヨ。インカ帝国を滅ぼしたスペイン人征服者フランシスコ・ピサロの故郷と同じ名が冠せられたこの街は、「永遠の春の街」とも称される。また、同市は、太平洋岸からアンデス山脈東斜面までを含む広大なラ・リベルタ県の県都で、ペルー北部の経済的中心地のひとつでもある。

ペルーは、標高差が織りなす多様な生態系と豊富な水産資源による食の宝庫だ。そうしたなかで、海岸部の街では、スペイン起源のレシピが土着化した「クリオリヤ」料理や、新鮮な海の幸を活かした料理が有名である。ただし、ラ・リベルタ県、とくにトゥルヒーヨを中心に、月曜日だけに饗されるメニューがある。それがシャンバルである。

### シャンバルとは

シャンバルとは、一口にいえば、ブタの皮や肉、あるいは生ハムやリブローズの燻製などを、種々のマメとシャンバルとよばれる小麦と煮込んだスープである。付け合せには、ポップコーンが出ることが多い。

その調理工程は、基本的に前述の具材を煮るシンプルなお料理である。しかし、レシピの詳細は、レストランや各家庭で異なり、その味は驚くほど多様でもある。そこには譲れないこだわりや隠し味があるのだ。ちなみに、トゥルヒーヨで大人気のレストランでは、そこで調理された一週間分の七面鳥の骨をとりおき、スープストックとするという。

人びとが、家路につく前に食したためといわれている。また、海岸部に移住してきた山地の人びとが、週末のパーティなどでふるまったものが徐々に形を変えながら定着したという説や、そのパーティの食事の残りを他の具材と一緒に煮てつくったという話もある。

### 今週も元気に働くために

トゥルヒーヨの人たちに愛されるシャンバル。その由来は定かではないが、一週間分のエネルギーを蓄えるために、週の頭の月曜日に食べるという点に関しては、誰もが合意する。たしかに、さまざまな具材を煮込んだスープは、栄養満点である。

この名物料理は、有名店では四〇〇人分をつくっても、一〇時から提供して一四時には完売となるほどの人気を誇る。朝七時からメニューに並ぶところもあるようだが、朝食にはいささか重い。また、夕食には提供されない昼までの限定メニューなのだ。

現在では、観光客のために、事前予約すれば



シャンバルを求める客でにぎわうレストラン

ただし、このスープについては、じつはよくわかっていないことが多い。シャンバルということば自体、先住民言語のケチュア語や現在広く使用されるスペイン語でもなく、それは経年的にケチュア語が変化したものとも、両言語が混ざったものともいわれている。

また、多くの人は、シャンバルをペルー北部山地で生まれ、人の移動とともに海岸部へやってきたものと考えている。確かに、材料をみると山地でとれるものが多い。そして、北部山地月曜日以外にもシャンバルを出すレストランもある。ただし、これはトゥルヒーヨの子には不人気で、彼らにいわせれば、それは本当のシャンバルではない。また、レシピに創作的に手が加えられる場合もあるようで、シャンバルも変化が激しい現代の波にもまれていくといえよう。ただし、そのなかでもいつも変わらないのは、シャンバルがトゥルヒーヨの人たちの心と身体に深く染みこみ、彼らを心身ともに満たしてくれるソウルフードだということである。

### シャンバル (8人分)

小麦 (シャンバル、日本の小麦でも代用可) 500g

インゲンマメ、ヒヨコマメ、ソラマメ、エンドウマメ、ライマメ それぞれ 250g

ブタのリブローズ (生ハムまたはリブローズの燻製でもよい)、ブタの皮 それぞれ 500g

タマネギ、アヒパカ 各2個  
アヒミラソル、ロコト 各1個  
ニンニク 3個

コリアンダー、ミント 各2束  
塩、コショウ、オレガノ 少々

- ① 小麦とマメ類は前日から水に浸して柔らかくしておく。
- ② 小麦とマメ類を鍋にたっぷりの水で煮る。
- ③ ブタの肉や皮 (生ハムまたはリブローズの燻製) を鍋にいれ、さらに煮る。
- ④ 並行してフライパンでタマネギやトウガラシ各種、ニンニクを火にかけ、併せる。
- ⑤ ④を鍋に加え、コリアンダー、ミントを加え、塩、コショウ、オレガノで味を調える。
- ⑥ とろみがついてきたら完成。

※アヒパカ：辛みが少ないトウガラシの一種  
アヒミラソル：強い辛みをもつトウガラシの一種  
ロコト：非常に辛い激辛のトウガラシの一種

権力というと、一般的には、地位や権限を利用して他人に何かを強制することなどをイメージする。しかし、権力というものは、もつと巧妙にそれとわからないようなかたちでも作動している。

フランスの哲学者ミシェル・フーコー（一九二六―八四）は、近代社会になってひとつの微細な権力装置のかたちがあらわれたことを指摘した。それが生権力<sup>せいけんりょく</sup>である。近代社会において、国家はもはや王家や将軍の持ちものではなくなり、自立したひとつの有機的生命体のようなのだと見なされるようになった。そして、国家は自分自身を維持・拡大することを自己目的にするようになった。同時に、国民は国王が生殺与奪の権力を振りかざして、おどしたり調教したりする対象ではなくなり、国家と社会という生命体を維持・発展させるための不可欠の要素だとみなされるようになる。そのため、近代国民国家は、こぞって国民の健康を増進し、性生活と生殖活動の管理をおこなうようになっていく。とりわけ、性の管理はその典型である。さまざまな「性倒錯」（自慰や同性愛など）は、国民の健康を害する問題と見なされるようになる。人びとは、これらの行為を見とがめられるだけではなく、そういう異常な性癖をもっていないかどうかを自分自身で吟味し、告白し、相談するように仕向けられていった。

このような生権力は、一般に「生かす権力」だと言われる。たしかに、生権力は「言うことを聞かなければ殺す」というような物騒な権力ではない。つつがなく生きていたいという

つつがなく  
生きるための

人間学の  
キーワード

## 生権力 Bio-politics

加藤 敦典 東京大学 東アジア・リベラルアーツ・イニシアティブ特任講師

人びとの思いをやさしく包摂する権力であり、親切で、ときにお節介な権力である。しかし、歴史的な事実としてみると、このような生権力はしばしば暴力的なかたちでエスカレートすることがあった。たとえば、ホロコーストがその典型である。ホロコーストの思想は、国民の優秀さを増大するためには人種の純粋さを高めなければいけない、そのためにはユダヤ人種を根絶やしにしたほうがよい、という考え方を背景にしていた。このような考え方は、やがて、狭義の人種だけではなく、身体障害者、精神障害者などといった優生学的リスクを根絶やしにしようとしはじめる。

今日の文化人類学者は、現地の人びとに対して実施される医療や公衆衛生の思想と実践のありかたを描きだすことで、文明化、近代化、リスク管理などの名目のもとで行使される生権力に警鐘を鳴らしてきた。また、他方では、一人一人の生を国家と社会の防衛などより大切にすることを思想と、それを担保する信念や慣行や創発的な実践が実際の人びとの暮らしのなかに生き生きとして存在していることを明らかにしてきた。実際、多くの自生的なコミュニティは「異常」者を排除せず、むしろ包摂していくような機構をそなえているものである。このように、文化人類学者は、実地調査に基づいて、周縁世界における生権力の展開を描きだすとともに、生権力がとらえられることのできない、よりゆるやかな生の作法のありかたを提示してきたといえるだろう。







# 耳が聞こえないから コミュニケーション障害か？

きがら けいこ 相良 啓子 民博 プロジェクト研究員

「手話」あるいは「手話通訳」と聞いて何をイメージするだろうか？「手話は聴覚障害者が使うコミュニケーション手段」「手話通訳は聞こえる人が聞こえない人のために手話でコミュニケーションをサポートをする人」というような考えがばつと浮かんでくるのではないだろうか。

## 手話通訳は誰のために

筆者はイギリスのセントラル・ランカシャー大学内にある国際手話言語学・ろう文化学研究所 (iSLands) で手話言語学のプロジェクトに携わった。そこでは福祉的位置づけとしての手話ではなく、言語としての手話、学問としてのデフ・スタディーズに関する最先端の研究がおこなわれている。そこで使われる共通言語は、イギリス手話か

国際手話だ。ろう聴の別に関係なく、皆、流暢な手話を使う。時折、他の学部や海外から手話を使用しない聴者の訪問客があるが、さて、コミュニケーションの壁、いわゆる「障害」に直面するのは、果たして誰だろうか。このような場において困るのは、ろう者ではなく手話を解することができない聴者の方だ。そして手話通訳が付くことでコミュニケーションが可能になる。「誰のための手話通訳か？」は、状況によ



アメリカ手話 (上) とイギリス手話 (下) の指文字表  
(<http://www.fingerspellingalphabet.com>  
<http://www.british-sign.co.uk> より転載)

## ろうの通訳者

iSLands の言語学関係のイベントで、米国人ろう者の講演がおこなわれたこと

がある。音声言語は、アメリカとイギリス、いずれにおいても英語が話されるが、手話となると、両国で使われるものはまったく異なっている。指文字も、アメリカ手話では片手のみであるのに対し、イギリスでは両手で表現する。そのままではお互いに通じず、通訳が必要になる。そこで大活躍したのが、イギリ

ス手話とアメリカ手話の両方を巧みにこなせるろうの通訳者だった。ステージ前にろうの通訳者が座り、アメリカ手話をすべてイギリス手話に通訳する。そしてそれを聴者の通訳者が英語に読みとり通訳し、ステージに立つ通訳がそれを聞いてさらに、イギリス手話で表現する。そのプロフェッショナルな通訳のあり方にとっても新鮮なものを感じた。手話通訳は聴者だからではなく、ろう者だからできる仕事でもあるのだ。



街のクリスマスソング、電光イルミネーションに、心ときめく季節がやってきた。サンタを待つ子ならなおさらだ。サンタと言えば、あの服装。でも、なぜ？ 誰も実物のサンタさんに会ったことはないはずなのに。

## アメリカを身にまとったサンタクロース

葛野 浩昭 立教大学教授

サンタの赤はコカ・コーラの色か？

サンタの衣装に関しては、今も「赤いロゴマークのコカ・コーラ社が、広告で赤いサンタを広めた」との噂を信じている人が少なくない。まずは、「サンタの国」として有名なフィンランドのサンタを見てみよう。黒いベルトや靴を身につけていない点、また、フィンランドの民族衣装を意識して上着に刺繍が入っている点など、わたしたちにお馴染みのコカ・コーラのサンタとは少し違う印象かも知れない。しかし、これでも基本的にはアメリカン・サンタと違って良いだろう。

しかし、サンタや、そのモデルになったキリスト教の聖人ニコラウスは、コカ・コーラのサンタよりも遥かに前から、赤いガウンを着た姿で描かれることが多かった。

### 人気抜群の聖ニコラウス

子どもの守護聖人でもある聖ニコラウスは、ヨーロッパ各地で二月六日（聖ニコラウスの日）に、子どもたちにプレゼントを届ける。古くから人気抜群の聖人であり、ヨーロッパ各地で彫像がつけられ、アルザス地域

には、キリスト教以前の北欧（ゲルマン）神話のオーディン（ヴォーダン）が隠れていて、太陽の運行をつかさどるオーディンが赤いマントを着て八本脚の神馬スレイプニールに乗ることも、聖ニコラウスやサンタの赤いガウンにつながっている（くわえて、サンタのそりを曳くトナカイは八頭である）。

### 赤いガウンは星条旗？

アメリカン・サンタは、オランダからの移民たちがニューヨーク（旧名ニューアムステルダム）へもたらした聖ニコラウス（シンタクラス）信仰から生まれた。文章のうえでは、一八二二年、神学者のC・C・ムーア（二七七九〜一八六三）が作ったとされる一篇の詩「聖ニコラスの訪問（Visit from St. Nicholas, 別名『Twas the Night before Christmas』）が始まりだが、この詩には数多くの有名な画家たちが挿絵を描いてきた。なかでもサンタのイメージを決定的にしたのが、共和党をゾウ、民主党をロバで描いたことでも有名なT・ナスト（一八四〇〜一九〇二）であった。彼が雑誌『ハー

フィンランド、ロヴァニエミ市にある「サンタクロス村」のサンタ。フィンランドの北極圏北東部、耳の形をしたコルヴァ・トゥントゥリ（耳・丘）に住み、その大きな耳が世界中の子どもの願いを聞くという（提供・サンタクロス村オフィシャルサイト）



のガラス絵やロシア正教のイコン画などにもさかんに描かれたが、その多くは赤いガウンを着ている。わたしたちが思い描くサンタと違うところは、でっぷりと太ってはいないこと、手に司教杖を持つこと、塩漬け肉にして食べようとした肉屋から助けた三人の子どもたちが足元の桶のなかに立っていることなどだろうか。

聖ニコラウスが赤いガウンを着ることは、信者の幸福のために自分が流す血をあらわすともいわれる。また、ヨーロッパ北部の聖ニコラウス信仰のガラス絵やロシア正教のイコン画などに描き続けたサンタの第一号（一八六三年）は、『パーズ・ウィークリー』や絵本に描き続けたサンタの第一号（一八六三年）は、上着が星の模様、ズボンがストライプ模様の、星条旗デザインの衣装を着ていた。白黒の絵だが、星条旗の赤色が意識されていたに違いない。カラー刷りの絵本などに彼が描いたサンタは、防寒用だろう、赤茶色の毛皮コートが多い。

### アメリカの「制服」

ナストはナポレオン戦争後の大混乱のなかにあった中部ヨーロッパ、アルザス地域に生まれ、六歳でニューヨークへ移住した。彼にとつては、南北戦争で分裂するアメリカがひとつの国家へとまとまるのが悲願であった。『ハーパーズ・ウィークリー』などを舞台に北軍の正義を訴え、リンカーンやグラントを英雄へと仕立てあげた。そんなナストが描いたサンタはアメリカの象徴であり、サンタの赤い衣装はアメリカという新しい国の「制服」だったといつて良いだろう、コカ・コーラのサンタ以前から。



聖ニコラウスのガラス絵  
19世紀。フランスのアルザス地域。18〜19世紀、社会の混乱のなかでアルザス地域では宗教的ガラス絵が人気を集めた



T・ナストのサンタ第1号  
「SANTA CLAUS IN CAMP」。星条旗デザインの衣装を着たサンタの向こうには星条旗がたなびき、画面上部には「US」の文字が躍る。『ハーパーズ・ウィークリー』1863年1月3日号より



T・ナストのサンタ絵本  
19世紀後半に人気を集めたマクラフリン・ブラザーズ社の絵本シリーズの1冊。サンタは赤茶色の毛皮コートを着ている



## 編集後記

庭の片隅の砂場で泥だんごを一心に作っている、という場面が自分が遊んでいるもっとも古い記憶かもしれない。水の量を微妙に調整し、試行錯誤を重ね、崩れない完ぺきな球体に丸め、最後に乾いた砂を表面にまぶしてできあがった作品に満足し、ふーっとため息をついて見上げると、そこにアジサイの手まり咲き。これが世にいう原体験なのだろう。少し四肢が発達したころにはお気に入りの木に登り、空や風景を眺める時間に充足感をおぼえていたように思う。買ってもらったおもちゃでもっとも使用時間が長かったのは、レゴと着せ替え人形。

20年後、30年後、自分の孫はいったいどんなおもちゃで遊ぶのだろうか。子どもたちは、ますますリアルになったロボットや、仮想現実を巧みに操る遊びに興じるのかもしれない。しかし、一方で世界中の化石燃料はあと数十年で尽きるというので、それに代わる安全なエネルギー源が確保されない限り、電力がないと製造できない、あるいは作動しないおもちゃは大幅に減少する可能性もある。発電ユニット付きのエコおもちゃ開発の動きはすでにあるらしい。

(山中由里子)

- 表紙：タコノキの葉で作られたボール  
地域：マーシャル諸島、マジロ環礁 標本番号 H0004556  
ウマのおもちゃ  
地域：メキシコ 民族：ウィチョル 標本番号 H0154767

## 次号の予告

特集

## ひっじ

※みんなぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

## みんなぱくをもっと楽しみたい 人のために—会員制度のご案内

### 国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

### みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

### 国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

## 月刊みんなぱく 2014年12月号

第38巻第12号通巻第447号 2014年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信  
編集委員 山中由里子(編集長) 櫻久真佐夫 河合洋尚  
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三

編集アドバイザー 山内直樹  
デザイン 宮谷一孝 長岡綾子  
制作・協力 一般財団法人千里文化財団  
印刷 能登印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。

### みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

### みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MIINPAKU.official/>

### みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MIINPAKUofficial>